



Rotary



Report

2023-24 No.6 令和5年10月27日

東京八王子西
ロータリークラブ

●会長標語

会長 神辺 和幸

ロータリーで会おう そして行動しよう

今週のプログラム

- 第2750回 (10/27)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*卓話: ディライト株式会社

代表取締役齋藤修次氏 (東京銀座新 RC)
「社長さんが知っておくべき相続・事業継承の話」

次回のプログラム

- 第2751回 (11/10)
- 会場 京王プラザホテル八王子

*三祝

*イニシエーションスピーチ
安藤謙一郎会員

卓話「自転車の交通ルールについて」

2023年10月13日



警視庁八王子警察署 交通課課長警部 新井一成氏

八王子警察署管内での、自転車と自動車との交通事故について、現状をお話をさせていただきました。今年度の1月から9月までの数字になるんですけど、自転車が関係した交通事故というのは138件ございました。そのうち、自転車の方に過失があった事故というのは49件になります。八王子警察署管内での同時期の交通事故の件数は910件ですので、自転車が関与している事故というのは約15%になります。そのうち特に大きな事故が約2件ございます。まず5月、16号バイパスで歩道上を走っていた自転車同士の前部衝突の事故がございました。こちらの事故は残念なことに相手の方の70代の男性が事故から数日後にお亡くなりになっております。もう1件は6月で、夜、創価大学の近くの谷野街道で自転車が歩道を走っておりまして19歳の大学生になるんですけど、90

度も歩道から横断歩道を急に90度渡ろうとしたところ、ちょうどダンクが来て引かれてしまい、命に別状はなかったんですけど、でも、足を切断するという大きなけがを負われております。両方とも歩道を走っていたというところが特にポイントになると思います。自転車を利用する方というのは、本当に小さなお子様から高齢者まで幅広い年代に渡っております。しかし運転免許証が不要です。自動車のように今まで厳正な取り締まりをしていなかったということもあり、多くの利用者は歩行者の延長というように捉えております。例えば歩道を走ってみたり、道路を逆走したり、一時停止を守らなかったりなど、交通ルールを守らない走行というのが横行しております。とは言いつても、車を運転していて、自転車を相手に交通事故を起こして「自動車運転過失傷害罪」というのに問われ、「安全運転義務違反」として行政処分を受ける場合がございまして。警察官を呼んで実況見聞を立ち会ったりとか、後日警察署に呼び出されて取り調べを受けるということにもなります。その手間暇だけ考えましても非常に煩わしいと思われまして、ルール無視で走る自転車にイライラするということも車を運転していて私自身

もありませんけれども、自転車等の事故というのは避けるにこしたことはないと思います。今日お話ししたのは、まずは自転車を運転する立場から見た自転車の危険性についてお話をさせていただきます。自転車事故の相手、当事者別に見ると、自動車が約77%、ついで単独でぶつかったりとか転倒したりするのが7%ということなので、事故のほとんどは自動車を相手にした事故になります。約52%が出合い頭の衝突になります。交差点などで正面から来たり、横から来たりして、ちょうど同じタイミングでぶつかる形ですね。ついで16%が左折時の衝突ですね。車が交差点に沿って左折したときに自転車を巻き込むような形でぶつかったりとかです。13%が右折時の衝突となります。右折の場合、車は反対車線を跨いだ形で曲がっていきまので、気づくのが遅れて事故になるということがあります。

自転車側の原因で多いパターンについてお話しします。まずは急な進路変更です。自動車を運転していれば進路変更するときは当然左右や後方の確認をするというのが当たり前になっています。自転車の乗る方の多くは、安全確認をしないまま急に車道に飛び出してきり進路変更をしています。皆様も危ないと思った経験があると思います。ついで一時不停止の標識があるにもかかわらず交差点に侵入してきて衝突するというパターンです。また一方通行を逆走してくる場合です。一方通行に関しては自転車を除くという補助標識というのが付いていますので、自転車の方というのは一方通行であろうと構わず向かってきます。車にとっては向かってくる、ということになります。そこで自転車にとつては違反ではないのですけれども、交差点の道路にとつては一時停止がないために飛び出してくるということがあります。自転車はこいでいて一旦止まってしまうとこぎ出すのに力があるため横着をして止まらないということでご高齢の方とかにもそういった事故が見受けられます。続いて信号無視です。自動車であれば厳正に止まるんですけども、自転車の場合は違反の意識が歩行者の延長というような方も多いことから、渡つてしまふという方がいらつしやいます。車にとつては青信号なので、何の迷いもなく進んでいきます。当然、衝突すれば重傷化するパターンが多いです。その他に夜にライトを点けない無灯火走行、車道の右側を走る逆走、片手で傘を刺したりとかですね、スマートフォンを操作しながらの走行など、危険な走行も見受

けられます。また、自動車との事故ではありませんが、自転車が加害者になるパターンで非常に多いのが、歩道上での歩行者との接触です。通行可という標識があるんですけども、ちょうど水色の丸い標識になります。自転車のマークと歩行者のマークが白抜きで書かれている標識になります。その標識のあるところは自転車も通つていいんですけども、そこで接触して歩行者が転倒して重傷を負うということもあります。自転車通行可と言いますが、自転車は歩道の車道寄りをいつでも止まれる速度で走らなければならぬということになります。時速で言うと、歩行のちよつと延長です。約時速10キロ以内だとは思いますが、多くの自転車は車道と変わらないスピードで走っているのを見受けられます。特に最近では電動アシスト自転車に乗る方が増えておりまして、比較的高齢の方でもスピードを出して走行しているのを見受けられます。ちなみに、電動アシスト自転車は踏み込んだときにパワーをアシストしてくれる力の比率が決まっております。アシスト状態で最高速度も決められております。その速度は約時速24キロです。かなり速い速度が出ます。高齢の歩行者などであれば頭部を打つなどして死亡事故に至るといったこともございます。すべての自転車がルールを守らないというわけ

はありませんが、車を運転する立場としましては、もしかすると飛び出していくんじゃないかとか、急に進路を変えるんじゃないかなどと思いつながら運転する必要があります。もちろん我々警察としてもルール無視の自転車を野放しにしているわけではありません。悪質危険な自転車運転者には交通違反として取締りを行っております。また、違反を反復して行った場合は呼び出して安全講習を受けさせるなどして、ルールを守らせるように努めております。また別の立場からお願いになるんですけども、従業員の方にお願ひしていただきたいことになりませんが、自転車の保険加入の確認をお願いいたします。自転車の事故でも相手に重傷を負わせれば、1億円近くの損害賠償を負うこともあります。東京都では令和2年4月から自転車の保険への加入というものが義務化されております。傷害保険や自動車保険などに付帯している場合もあります。当然自転車単体の保険というものもありますので、従業員の方の加入の確認をお願いいたします。また、従業員の方だけではなく、ご家族も適用されるかどうか確認をお願いいたします。もし多額の賠償責任を保険加入なく負ってしまった場合は、本当に加害者ではありませんが、家族が不幸になってしまいます。ついでにヘルメットの着脱の確認を

お願いいたします。自転車乗用の事故で亡くなった方の怪我をした部位の6割が頭部を損傷したことによる事故になります。自転車のヘルメットの着脱は今年の4月から努力義務となっております。努力義務というので罰則のない規定のため、女性の方や若い方は髪型や見た目を気にされて敬遠されているということが見受けられます。そのため、まだまだヘルメットが普及しているとは言えない状況にあります。しかし、命を守るためにも必ず着脱をするようお願いいたします。歩行の延長という気持ちから、これから年末にかけて忘年会や年が明けて新年会などが増える時期ですが、飲酒運転も自転車は禁止です。自宅の最寄り駅から自転車を使うという方も特に注意が必要だと思っております。ご自身が怪我をする場合も当然ありますし、相手に怪我を負わせるという場合もございます。ふつとしたりいつもは確認しているのがおそれるようになったり危険になりますので、従業員の方が今日飲みに行くとか、そういうのを把握された場合は、帰りには自転車を乗らないように指導をお願いいたします。また、自転車の点検も定期的に行うように指示をお願いいたします。当署では、自転車利用のキャンペーンということで、定期的に管内の自転車商組合の方のご協力を得て、横山町のところで自転車の無料点

検を行っております。つい先月も交通安全期間中に行つたのですが、ブレーキがほとんど効いていない自転車や、チェーンがたるんでいる自転車なども持ち込まれております。当然、ブレーキが効いていなければ停止もできませんし、チェーンがたるんでいる場合は突然チェーンが外れてペダルが空転して転倒するなどの怪我につながります。自転車は車と違って車検がありませんので、公道を走るときはしっかりと整備された自転車に乗ることが大切になると思っております。また、自転車通勤に通勤手当を出している会社もあるかと思いますが、いろいろな手当の方法がありますが、距離などによつて算出している場合もあると思っております。自転車の通勤経路について従業員の方の確認をお願いいたします。安全な経路がどうか、交通

量が多いところを通つていないかを把握した上で、安全な自転車の走行を指導するようにお願いできたらと思います。また地元の名な自転車競技部がございまして、当署でもこちらの部員の方を自転車安全利用アンバサダーということで委嘱をしまして自転車の模範走行とか、各種キャンペーンでの啓発品などの配布などをお願いしております。自転車利用の普及活動を我々と一緒に行っておりますので、応援の方、よろしくお願ひいたします。以上になりますが、我々警察も安全な交通社会をつくるためにいろいろな対策を講じさせていただいております。皆様方のご協力とご理解のほど引き続きよろしくお願ひしたいと思っております。



写真提供：釣り同好会



例会 報告

第2748回 ● 2023.10.13（金）

◇司会 角田昌己会場監督補佐



司会 / 角田会場監督補佐

◇開会点鐘 神辺和幸会長

◇Rンク 我らの生業

◇お客様のご紹介

警視庁八王子警察署交通課 課長警部 新井一成様、

交通課交通総務係主任巡查 部長 田中宏明様、

新会員 檜崎雅彦様

◇食事と交歓 和食

◇出席報告・ニコニコ発表

森 明出席・財務委員



出席報告 / ニコニコ発表 / 森 明出席・財務委員

会員108名中61名出席。出席率60・40%。前回9月29日の出席率57・58%を60・61%に修正いたします。

◇会長挨拶 神辺和幸会長



会長挨拶 / 神辺和幸会長

*今日は檜崎雅彦さんがお仲

間になるということでたくさんニコニコをありがとうございます。

*今日10月13日は何の日かと調べましたら、引越しの日で、1868年に明治天皇が京都から江戸城へ引越された日とのことでした。当時京都の人々は大反対だったそうです。引越しいえば、私の24歳になる一人娘が今月の初めに引越しをしまして、夫婦とトイプードルの3人暮らしになりました。たまには顔を出しに来いと言っていますが、のびのびと一人暮らしをエンジョイしているようです。決して結婚が間近ということではございませんので、どなたが良い方がいらつしやいましたらぜひお願いいたします。

*先程出席財務の方から報告がございましたが、先般の福山パスト会長のご葬儀では親睦委員の方には受付などのお手伝いをしていただき、また大変多くのメンバーの方々にご焼香いただきましてどうもありがとうございました。その後の壇払いに私も出席させていただきましたが、ご友人や各種団体の方から良い思い出話をたくさん聞くことができました。今朝、福山パスト会長の長男がうちの会社にお越しになり、本当でしたら今日の例会で皆さまにお礼をしたかったがどうしても仕事の都合で伺えないのとこ

とで、その時の御礼をお預かりした次第です。

*尊敬している先輩から「元氣なうちに旅行したり飲みに行ったり遊ばないといけない」とよく聞いております。私も今年還暦を迎えたのでそういうことをひしひしと実感しております。こんな私でよろしければ一緒に遊んだり飲んだり旅行にも行きます。決して後悔したくはないと思いつたので是非お声がけいただけましたらありがたいです。遊び以上に仕事も精一杯頑張りたいと思いますので、お仕事をご紹介したり、またご紹介していただいたりと職業奉仕の一環として当クラブの皆さま方と共に頑張りたいと思います。

◇幹事報告 市川 隆幹事



幹事報告 / 市川隆幹事

*10/15(日)の日経新聞にロータリーの広告が掲載されました。

*本日メールボックスに、ウィークリー第5号、シンガポール国際大会とガバナートナイトのリーフレットを配布いたしましたので確認をお願いいたします。

◇新会員入会式

紹介者：伊藤則久会員
入会者：檜崎雅彦新会員

◇RLI修了証と卒業証贈呈 山口 覚会員



◇卓話

スピーカー紹介

田村 肇プログラム委員長

スピーカー 警視庁八王子警察署交通課課長警部

新井一成氏

テーマ 「自転車の交通ルールについて」

◇閉会点鐘 神辺和幸会長



2023.10.13(金)

◇神辺会長・新会員檜崎雅彦さんへ入会おめでとうござ

ざいます。八王子警察署新井一成様、本日の卓話よろしくお願ひ申し上げます。

◇市川幹事・新会員檜崎雅彦さんへ入会おめでとうござ

います。新しい仲間ができてとてもうれしいです。

◇福山家へご葬儀の多額な御礼として。

◇檜崎博・本日から長男雅彦が入会致します。よろしくお願ひ致します。

◇田辺・檜崎雅彦君のご入会おめでとうござ

います。

◇鈴木重春・檜崎社長様へ入会おめでとうござ

います。

◇石井・お久しぶりです。

◇石森・新会員の檜崎雅彦さんへ入会おめでとうござ

います。楽しくやりましようね。

◇橋本・檜崎雅彦君入会おめでとうござ

います。

◇山口・檜崎雅彦新会員、おめでとうござ

います。新井交通課長の卓話宜しくお願ひ致します。

◇塚本・本日入会された檜崎雅彦君を宜しくお願ひします！

◇関・檜崎雅彦新会員をよろしくお願ひ致します。

◇伊藤・新会員檜崎くんをよろしくお願ひいたします。

◇井上・結婚祝い(30年)のお花ありがとうございました。妻も大変喜んでました。

◇金子・新会員の檜崎さんを宜しくお願ひします。

◇田村・本日の卓話、八王子警察署、新井交通課課長、宜しくお願ひ申し上げます。

◇塩野・檜崎雅彦さんへ入会おめでとうござ

います。首を長くしておまちしておりました。今後ともよろしくお願ひします。

◇小松・檜崎雅彦様へ入会おめでとうござ

います。

◇小林洋文・新会員の檜崎雅彦さんへ入会おめでとう

ございます。

◇檜崎雅彦・入会をさせていただきますので宜しくお願ひ致します。

(順不同・会員敬称略)

卓話

「ダイアログ・ダイバーシティミュージアム」の取り組みと

「いづれも5000人プロジェクトについて」

2023年10月20日

ダイアログ・ジャパン・ソサエティ
運営統括事務局/シニアマネージャー

佐川久美子氏

由に楽しむプログラム。そして3つめがダイアログ・ウィズ・タイム。この案内役は人生経験豊富な75歳以上の方々です。生き方との対話ということで、世代を超えた対話、一人一人がこれからの生き方について考える、そのようなプログラムを展開していく施設となっています。

ダイアログ・イン・ザ・ダークは常時開催。そしてダイアログ・イン・サイレンスは年間の中で期間を限定して開催。3つめのダイアログ・ウィズ・タイムは来年の春の開催を目指して今準備をしているところです。

ダイアログ・イン・ザ・ダークをはじめとして、これらはドイツが発祥のプロジェクトです。発案者はアンドレアス・ハイネッケという哲学者です。彼はドイツとユダヤの間に生まれました。今も現実に戦争が起っています。そういう悲惨な歴史がある両者の間で生まれたという、生育環境を持っていきます。彼はそのことを知らずに育ったのですがある日、戦争の映像がテレビに流れたときに、お母様が涙したので、何で泣いているの？と聞くと、「あなたの体の中には二つの血が流れているのよ」ということを知らされます。そのことに変なショックを受けまして、どうして

民族や文化の違いによって争い事が起きるのか、これはなぜなのかということを探求するために哲学の道に進みました。そしていろいろな本を読んだ中で、対話をテーマにした本があったようなのですが、さまざまトラブルや争いは対話が解決の糸口になるということ学びます。その後、ハイネッケはラジオ局で働く機会を得ました。ある日、先輩に呼ばれまして、今度後輩が一人入ると言われ待っていると、そこに2年前に失明をしたジャーナリストが配属されます。事故で失明をした方だったそうです。そこで戸惑いまして、どうやって一緒に仕事をしたらいいんだろう。また、見えない人にどこまで何がわかるのか、どういうふうに伝えていったらいいだろう、ということ悩みます。ですが一緒に仕事をしていくうちに、その後輩の持つ視覚以外の感性の豊かさだったり、コミュニケーションの取り方で自分が非常に学びを得る経験がありました。彼はこの経験を一人でも多くの人に伝えたいということで1989年、ドイツで小さな暗闇を使つたショーケースを始めます。そこに人がどんどん訪れまして、たくさんのお気づきが生まれ、ヨーロッパで広まっています。

ヨーロッパで開催していることを知った代表が、ぜひ日本でもというので、1999年、日本で初開催に至りました。グローバルのダイアログがチームの中で持っているテーマが「Moving Beyond Difference 違いを越えてその先へ」というテーマになります。障害の疑似体験ではなく多様性を理解するソーシャルエンターテインメントとして開催をしています。

障害者が健常者を助ける

私たちのこれまでの常識と言いますと、健常者が障害者を助けるということでしたが、私たちはダイアログは障害者が健常者を助けるというふうな立場が逆転します。先ほどもお話ししたのですが、ダイアログの暗闇は光一筋入らない漆黒な暗闇を準備しています。これ大変なんです。暗闇を作るのです。目が慣れることがありますが、体験される方にはどうぞ目を休ませてください。というふうにお伝えをしています。体験する場合は何名かのチームで入つていただきます。そこに一人の視覚障害者がアテンドという案内役としてつくのですが、暗闇では日常の肩書きや役割、性別や国籍、年齢など関係なく

一人一人の人間として向き合う、そんな体験となります。もちろん視覚を使っている私たちが、今日こういう人たちと一緒に体験するのね、ということが見ただけで、声を出さずにわかるのですが、私たちのアテンドのスタッフは声で把握をするのです。ですから、暗闇の中でも何と呼んだったらいいですか、というふうに聞いていきます。その時に○部長とか○社長とかそういうことではなく、自分のことは○と呼んでくださいとか、自分は○が好きなので今日はこういう呼び方で呼んでください。または小さな時こんなあだ名があったのでニックネームで呼んでください、というふうな名前を一人ずつ付けていただきます。皆さんが名前を呼び合つて体験するうちにどんどん関係性が変わっていきます。暗闇に入ると、多少なりとも緊張とか不安というのがあります。私も今でもあります。ですが一人ではなくて声を掛け合いながら一緒に、そして暗闇のプロであるアテンドがリードしてくれるので、あれ大丈夫かな？なんだか楽しくなってきたぞ、というふうにごんごん気持ちも変化していきます。体験を通じて、視覚障害者の存在がとてもしっかりと

私たちはダイアログ・ダイバーシティミュージアム「対話の森」という施設で活動をしています。これは東京の竹芝にあります。JR浜松町駅から歩いて6分、都営地下鉄大門駅から7分です。2020年の8月にダイバーシティを体験できる施設としてオープンしました。このミュージアムでは3つのプログラムを展開しています。

まず、ダイアログ・イン・ザ・ダーク。暗闇の中の対話です。これは視覚障害者が案内役となります。視覚以外の感覚やコミュニケーションを楽しんでいただくプログラム。2つめがダイアログ・イン・サイレンス。これは案内役が聴覚障害者になります。音や声に頼らず、表情やボディランゲージで言葉の壁を越え



つて、日頃の見方が逆転していき
ます。

私たちの組織が挑戦している
こととしては、目が見えないこと
が雇用条件であるということ
を掲げていることです。目や耳を
使わない豊かな経験を持つ方が
有利と打ち出しています。もち
ろんダークの場合は目を使わな
い人、サイレンスの場合は耳を使
わない人、これを条件として募
集していきます。ですので、私が
どんなに頑張っても、どんなに努
力してもこの仕事に就くこと
はできません。障害を新しい能
力に変えるという挑戦を続け
ています。

こどもだからこそ...

よく私たちはこどもだからと
か、大人だからというふうにか、
何々だからという言葉を使いが
ちなことがあるかと思えます。で
すが、この言葉にある二文字を
付け加えることによって見方が
すぐく変わるのではないかなと
いうふうを考えています。「こ
どもだからこそ」「大人だからこ
そ」この二文字です。目が見えな
いからこそ、耳が聞こえないから
こそ、できる仕事です。

ダイアログのアテンドは「だ
からこそできる仕事」ということ
でスタッフを募集しています。現在
私たちの組織は半数以上が障
害者です。中には2020年、
ミュージアムが東京にできるとい
うことを聞いて社会の多様性を
深めたい、理解をもっと広げたい

と大阪から一人東京に出てき
て仕事を始めた視覚障害者の
スタッフもいます。これしかでき
ないということではなく、障害が
あることを強みにして、だからこ
そできる仕事、新しい職域、そし
て楽しみながら生き生きと仕事
が送れる毎日、そのような障害
者雇用の場としても位置づけ
ていきたい、このことに今挑戦を
しています。

こども

5000人プロジェクト

ダイアログ・ダイバーシティ
ミュージアムの話ですけれども、
2020年8月、思い出していた
だくと、これはコロナ禍のオー
プンでした。ダイアログ・イン・ザ
・ダークは1999年から短期開
催だったり、あるいは場所を変
えたりしながら、何とか活動を
続けてきました。ですが、やはり
一人でも多くの方にこの体験を
していただきたいという思いで、
ミュージアム構想を夢にもつて、
2020年オープンの実現をし
ました。ところが、オープンした
時にコロナです。学校は長期休
校になり、それから外出制限が
あり、人と距離を確保しましよ
う、人が集まるところには行か
ないでください、というように社
会生活に大きな影響が生まれ
ました。多くの分断や差別も生ま
れたと思います。私たちがもっ
たオープンしたのに、計画通りの運
営ができない、お客様を迎える
ことができない、お客様に来てい

ただけない、どうしようと思いま
した。でも、それまで体験して
くださった方が今だからこそ、
やっぱりダイアログは続けるべき
です、特に、未来を担う子ども
たちにぜひこの体験を残してほ
しい。そんな声が多く挙がりま
した。本当に励みになりました。
そこでクラウドファンディングを
実施したところ、目標達成に至
りました。1391名の方々にご
支援いただきました。この資金
をもとに子どもたち5000人
を無料招待しようというプロ
ジェクトが始まりました。明後
日、森林パトロール隊の子ども
たちが来てくれると思うんです
けれども、この支援を使わせて
いただいて、皆さんに体験して
いただきます。体験の内容はダイ
アログ・イン・ザ・ダークと、それ
からダイアログ・イン・サイレンス。
この組み合わせなので、子ども
たちに向けた特別プログラムに
なっています。暗闇体験だつた
り、杖の冒険と書いてあります
が、白杖ですね。見えない人が
使っている白い杖があるんです
けれどもその使い方を覚えても
らったり、または聞こえない人と
出会う、手話通訳という仕事
があるんだということ、手話が
あるんだということ、いろいろ
文化に触れていただきます。

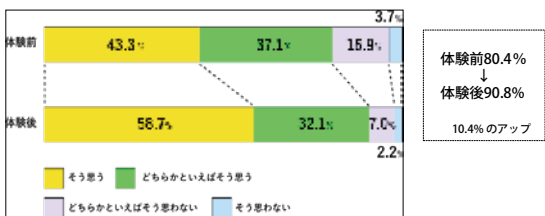
ですが、ダイアログを体験すると
自己肯定感がアップするという
結果が出ています。このグラフを
見ていただくと、体験前にアン
ケートを取ると自分自身に満
足している割合、「そう思う」「ど
ちらかと言えそう思う」が
80・40%でしたけれども、体験
すると10%以上上がった。こん
な結果が出ています。これどう
してなんだろうと考えるんです
けれども、暗闇の中で、名前を
呼び合うことがすごく多くな
るんですよ。子どもたちがお
互いに名前を呼び合います。案
内役のアテンドも一緒です。
誰々ちゃん、どこ？大丈夫？み
んなと一緒にいる？という声の
掛け合い、それから暗闇は怖
がらせるものではないので、楽し
いゲームなどもしながら一緒に
楽しいという気持ちで生まれて
きます。自分がいてよかった、助
けてもらった、自分も何か助け
たかな、という気持ちで生まれ
るんじゃないかなと思っていま
す。私も15年携わっていて、小
学校の授業として導入してくれ
た実績がある佐賀県や渋谷区等
の体験の様子を見てきました。
暗闇の中だといつもはグループで
組んでいない友達と話をした
り、もしくは暗闇の中で隅っこで
おとなしいなと思っている子が
声をかけてくれたり、いろんな
変化が生まれます。こんなこと
がこの自己肯定感のアップにつ
ながっているんじゃないかなと思
います。また、もう一つデータが

あるんですが、異文化や特徴の
異なる人々への関心や需要が高
まるという結果も出ています。
例えば体験前に異文化や特徴
の異なる人々をどう思います
か？ということ聞いていくと、
不安とか怖いとかもちらん
けれども、こういつたことも出
てきます。ワクワクするとか、楽し
いという割合ももちろんありま
すけれども、体験後と同じこと
を聞いていくと、ワクワクしたと
か、楽しかったという割合がグ
ッと上がるんですね。そして不安
だとか怖いという気持ちが下が
ります。これは、やっぱり障害者
という括りで見るとは、
一人の人と出会うって一緒に話
をして対話をして楽しかった、助
けてもらった、そういつたことか
ら気持ちに変化するのではない
かというふうに捉えています。

こどもたちがダイアログを体験すると

自己肯定感（自分自身への満足度）が向上する

▶自分自身にまんぞくしている割合





例会報告

第2749回●2023・10・20(金)

◆司会

小林洋文会場監督補佐

◆開会点鐘 神辺和幸会長

◆Rソング

それこそロータリー

◆お客様の紹介

ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ運営統括事務局／シニアマネージャー 佐川久美子様、事務局光末礼子様、東京八王子ロータリーアクトクラブ 会長内山陽太様、幹事塩野海斗様

◆食事と交歓 洋食

◆出席報告 ニコニコ発表

大田吉彦出席・財務委員 会員108名中66名出席。出席率65・35%。前々回10月6日の出席率66・00%を71・00%に修正いたします。

◆会長挨拶 神辺和幸会長

*先日16日にポリオ根絶チャリティゴルフコンペにわたくしと市川幹事、榊田直前幹事、安藤謙一郎会員の4名で参加してきました。よみうりカントリークラブで開催され、参加者は126名でした。わたくし達3名はなるべく安藤謙一郎会員の足を引っ張らないようにというのを一番の命題としていました。安藤会員はローハンドにもかかわらず飛び賞とドラコン賞をいただいで、ポリオの寄付もされ

たということですが以前はポリオ撲滅と言っていました。ポリオがなくなりませんでした。ポリオが存在している国を調べましたらアフガニスタンとパキスタンの2カ国でした。残っているということは蔓延する危険性があるということなので根こそぎ無くする必要があります。

*10月29日に世界ポリオデーのイベントがございまして当クラブからは三浦バスターガバナー、石森ガバナー補佐をはじめ数名参加されましたので、お時間がありましたら是非参加していただければと思います。当日は宮崎ガバナーが新潟の方から会場の銀座まで自転車で走破するそうです。

*本日はダイアローグ・ジャパン・ソサエティの佐川様より卓話をしていただきありがとうございます。実は昨年5月に三井ガーデンホテル神宮外苑の森に宿泊した際、2階で「ダイアログ・インザ・ダーク」という聞きなれないイベントを見かけて興味を持ち参加してみたいです。真っ暗闇の会場を視覚障がい者の方に誘導していただいて、五感を研ぎ澄まして自分を見つめる感覚でした。その真っ暗というのには単に目をつぶっただけの真っ暗ではなく、本当に右も左もはも

ちろんのこと、上も下もさえないからにくい、目を閉じても開けても真っ暗なのです。そういう世界では匂いだったり木に触れた手の感触だったりを頼りに、視覚障がい者の方に導いてもらい、自分でいろいろなことを考える良い体験でした。

*そのような良い体験を子ども達にもしてもらいたいと思います。明後日の日曜日に八王子の森林パトロール隊の隊員たちを対象に開催させていただきます。メンバーの皆さんもご興味のある方は是非ご参加いただくと機会があればいいなと思っております。

◆幹事報告 市川 隆幹事

◆助成金贈呈

東京八王子ロータリーアクトクラブ 内山陽太会長

◆卓話

スピーカー紹介

秋間勝仁職業奉仕委員長 スピーカー ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ運営統括事務局／シニアマネージャー 佐川久美子様

◆閉会点鐘 神辺和幸会長

スピーカー紹介

スピーカー紹介

スピーカー紹介



●2023・10・20(金)

◆神辺会長・ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ佐川久美子様、本日の卓話どうぞよろしくお願ひ申し上げます。

◆市川幹事・一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティの佐川様、光末様、本日はよろしくお願ひ致します。

◆黒須・53回目の結婚記念日のお祝いをありがとうございます。

◆大石創元・結婚記念日に花束をいただきました。ありがとうございます。

◆秋間・(一)社ダイアローグ・ジャパン・ソサエティの佐川さん、光末さん本日の卓話よろしくお願ひ致します。また10/22もよろしくお願ひ致します。

◆大石和春・櫻崎新会員入会お目出とございます。

◆田村・本日の卓話、佐川様、光末様よろしくお願ひ申し上げます。

◆鈴木卓・一般社団法人ダイアローグ・ジャパン・ソサエティ佐川久美子様の卓話楽しみにしています。また、22日の体験事業もよろしくお願ひ致します。

◆福田・卓話を楽しみにしています。

(順不同・会員敬称略)

東京八王子西ロータリークラブ

〒192-0083 東京都八王子市旭町 14 番 1 号 京王プラザホテル八王子 8F

TEL.042-649-3751 FAX.042-649-3753

<https://www.hachioji-west-rc.org>

会長 神辺和幸 幹事 市川 隆 広報委員会 浅川立憲 末木 博 船江栄次 及川久男 小林潔正 原 巖 平野智彦 天神敏博



皆様の投稿をお待ちしております。お気軽にお寄せください。

アイデアを上げよう : www.rotary.org